

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200908		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	中野新田グループホームそよ風(やすらぎユニット)		
所在地	静岡県駿河区中野新田254-5		
自己評価作成日	令和4年10月18日	評価結果市町村受理日	令和5年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.katgokensaku.mniw.go.jp/zz/index.php?action_kounyu_detail_022_kani=true&ligvosvncd=2295300095-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の平均年齢85.6歳、平均介護度3.1。日常的に介護が必要な方は過半数を超えております。ご入居者様が希望される生活が維持できますように、医療機関との連携を密にし、必要のあるご利用者には訪問マッサージを手配。ADLの維持・向上を図っております。日々の健康観察・異常の早期発見に務めております。入居者様の楽しみである食に関しては、誤嚥性肺炎の防止に務め、いつまでも美味しく楽しく召し上がって頂けるように支援しております。毎月歯科医院による口腔衛生に関する指導をいただいております。また、ご状態ごとに柔軟に食事形態を対応させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かつては地域との交流が盛んにおこなわれていた事業所ですが、利用者の重度化の波と同時に長引くコロナ禍で様変わりしました。「お客様と職員と地域が繋がる、開放的なセンター」の理念が示す通り、本来の地域密着型サービスとして地域貢献、地域共生を実現すべく、今年度は施設内外の環境作りに取り組んでいます。庭を手入れして駐車場の一角にベンチを設置し、コロナ禍にあっても地域交流や家族との面会を可能にするとともに、修復した看板を掲示板としても活用しています。また、施設内においても畳小上がりベンチやテーブルの整備等、着々と受け入れ態勢を進め、その日が来ることを心待ちにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様と職員と地域が繋がる、開放的なセンター」という、施設理念のもと、職員が一丸となってご利用者様の希望される生活継続と、地域と連携がとれる施設となる為、実践している。	2畳分の畳小上がりベンチを有効活用し、観葉植物で和みを添えるとともに、老朽化したテーブルの取り替えと追加等、施設内コミュニティスペースの環境整備で、コロナ収束を見据え、理念実現に向けていつでも地域交流がスタートできるよう準備を進めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	令和2年からの新型コロナウイルスの影響により、地域との交流は困難な状態となっている。	事業計画に地域貢献、地域共生の実現を目指した行動計画を掲げています。駐車場の一部をコミュニティスペースとし、感染対策を講じつつ交流できるようベンチを設置し、修復した看板を掲示板としても利用する他、季節を感じられる庭の手入れ等、受け入れ態勢を固めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年からの新型コロナウイルスの影響により、地域との交流は困難な状態となっている為、地域に向けて活かすことが難しい。認知症の専門職がいることを発信し、相談できる場所であることの周知を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年からの新型コロナウイルスの影響により、関係者が集まったの運営推進会議は5月に一度開催したのみ。開催できていない月に関しては施設現状に関する報告書を関係各所へ郵送し、適宜ご意見をいただいている。	感染者数の状況をみて5月には駐車場スペースを開放し、地域交流を兼ねた運営推進会議を試み、窓越しで利用者も参加しています。議事録は入居者状況、事故・ヒヤリハット集計、行事報告と写真を添えて自治会正副会長、地域包括支援センター、家族全員に郵送しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	在宅生活継続困難な事例の受け入れ、成年後見人制度における市町村長申し立ての相談、生活保護受給者の受け入れと状況報告等、相談・協力関係を築いている。	今年度おこなわれた実施指導の指摘には迅速な是正を図り、困難事例の受け入れに関しては地域包括支援センター担当者と連携して入居後も話し合いを重ねています。また、後見人についての相談をはじめ、生活支援課との連携も欠かせないものとして協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月に1度開催している。また身体拘束について毎月の全体会議で研修を行い、身体拘束をしないケアについて話し合いをし、身体拘束は行っていない。	全職員が出席する毎月の全体会議を活用して身体的拘束適正化・虐待防止検討委員会を開催しています。『虐待・身体拘束チェック表』の20項目をチェックして自らのケアを振り返り、職員配置の薄い時間帯に聞こえがちなスピーチロックに対し、その改善策を協議しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待についての研修も同じように行っております。管理者、職員で虐待に繋がらないよう注意を払っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について内部で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族様に十分に理解して頂けるように説明し疑問があれば納得して頂けるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にサービス向上の為のご家族へのアンケート調査を実施している。 ご意見箱を設置し気軽にお話し頂ける環境に努めています。	法人アンケートでは、コロナ禍で以前のように訪問できない現状から生じる心配の声があがっています。これを少しでも払拭できるよう、毎月のそよ風便りに暮らしがわかる写真を掲載するとともに個人欄を作成して、管理者または介護支援専門員から一ヶ月の様子を知らせています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	三役会議・ユニット会議・全体会議を開き話し合いの場を設けている。	会議前には協議内容に応じて事前アンケートを取り、各職員の考えを引き出せるよう努めています。また、業務フローは各フロアで利用者の状態に応じて修正し、座位保持が難しくなった利用者の清拭やリクライニング形式のシャワーキャリーの検討等、現場職員の声に耳を傾けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回面談を実施し、職員の状況を把握し困っている事がないか等の意見を聞き、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議時等の内部研修や外部研修に積極的に参加してしている。 外部研修で学んだ事を研修報告書にまとめ他の職員と共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和2年からの新型コロナウイルスの影響により、同業他社との交流機会の場が持てていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の要望や不安なことを聞きそれにお答えしながら、安心してサービス提供できる関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面接で困っていることや不安に思っていること、要望などを伺い、信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の面接時に生活歴や生活状況をお聞きし、課題となっていることを明確にし、適切な支援ができるように相談・助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今できていることを継続し、役割をもって生活していただくことにより、良好な関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ホーム便りをご家族にお送りし本人の写真と共に普段の様子や変わった事を伝えている。また状態に変化があった時には、その都度報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	令和2年から新型コロナウイルスの影響により、面会は感染予防対策を行い、ガラス越し・2mの距離を保つための対応となっている。Lineのビデオ通話機能の活用など、関係継続の為に努めている。	家族の面会はもとより、新規入居に伴う友人や知人の面会にもできる範囲で応じています。電話の取次ぎをおこなう他、携帯電話を所持している人や、年賀状や手紙のやり取りで息災を伝える人もおり、それぞれの方法で馴染みの人への関係継続のための支援が為されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子観察を実践する中で、ご利用者同士の関係性を把握し、共有スペースでの席の決定や、家事の役割分担を調整している。レクリエーションへの参加を通じ、孤立化を防ぎ、ともに楽しめる関係性を築けるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談や支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いが言える方には本人から希望を聞き、それに向かって支援している。困難な方は本人の立場で考え、生活歴やご家族からの情報提供の内容を踏まえて意向を検討している。	「唐揚げが食べたい」「青空の下でお饅頭が食べたい」「お酒が飲みたい」など、日々の会話から小さなことでも声を拾って申し送りノートに記載して共有し、形に出来るよう心がけています。発語が難しい人には、問いかけへの反応や表情を読み取りながら思いを探っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様や家族の方との話の中で生活歴や馴染みの暮らし方を把握している。ご利用開始時には居宅介護支援事業所等関係機関から情報提供をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の健康状態把握の為、バイタルチェック、食事・水分量チェック、排泄確認、体重測定を実施している。共有スペースでのご様子、自室での過ごし方等、様子観察を実施、また定期的にアセスメント実施し現状の能力の把握に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々モニタリングを実施、ご本人・ご家族へ意向を確認し、担当者会議による現状に即した介護計画を作成している。	日々の記録がモニタリングに反映されるシステムによりサービス内容の実施が明確になっています。全体会議におけるカンファレンスで、聞き取った家族の意向を現場職員に伝え、モニタリングと職員からの情報をもとに現状を把握し、計画作成担当が介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々様子観察を実施し、個別記録作成。申し送りノートも活用し、情報を共有。実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望を伺い、施設としてできることは実践、困難な場合には適切なサービスにつなげるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握し、個々に合った活用法の提供ができるように努めています。施設も一つの資源と考え、新たに資源として活用できることはないか、資源開発にも取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に契約頂いた協力医の往診が月に2回あり、状態の急変等あった際には夜間問わずすぐに対応していただいている。状態によっては紹介状により、適切な医療が受けられるように支援している。	24時間連絡が可能な協力医に全員が変更しています。月2回の訪問診療には「医療連携シート」に確認事項をまとめ、立ち会った職員が診療結果を記載するとともに、服薬内容等、指示によりケアに変更が生じた場合は申し送りノートにも記して確実な情報共有を図っています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1度健康管理に来ており、その時に個々のご利用者様の普段の情報や気づきを相談している。何かあったときには協力医に連絡するよう指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリを作成し、医療機関に提出。早期退院と受け入れの調整のため、病院関係者との情報交換や相談を積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明を実施。状態の変化見られた際には医療機関と連携し、意思確認書による施設のできることの説明、医療機関によるインフォームドコンセント及びその立ち合いにより、チーム支援に取り組んでいる。	平均介護度が3.6という重度化の中、本年度は2名を見送っています。看取りへの心構えを事前研修や全体会議で学び、看取り介護に係る計画に沿ってこまやかなケアで臨んでいます。お見送りの後には職員の不安やつらかった気持ちをカンファレンスで顧みています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時、事故発生時は、マニュアルに沿って行うように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての避難訓練を年に2回実施している。令和2年からの新型コロナウイルスによる影響で地域との協力体制が進んでいないが運営推進会議にて協力依頼をしている。	年2回の避難訓練には新人職員が体験できるよう勤務シフトを組み、日中及び夜間における地震～火災を想定して実施しています。水害時の避難先は小学校となっていますが、重度化の現状を鑑みて、近隣の介護保険事業所との連携体制を視野に入れていきます。	重度化における避難には地域との連携体制も欠かせないことが想定されます。スムーズな避難のために引き続き協力体制が得られる関係性の構築を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、言葉遣いや声の掛け方に注意を払い対応してる。	日頃留意していても、職員一名で複数の対応をしなければならない時間帯には口調がきつくなったり、利用者への配慮に欠ける場面がみられ、優先順位を考えたり、タイムスケジュールの再編、人員配置の工夫等、余裕を持ったケアができるよう見直しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中でご利用者様に自己決定ができるような声掛けをするよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれのペースを大切に、一日の過ごし方に関しては希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べる方にはご自分で選んでいただいている。持参の化粧水や洗顔せっけんを使っていただくように支援している。二か月に一回理美容が行われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な片づけや準備ができる利用者様には、職員と一緒にやっていたいしている。	食事形態もミキサーや刻み食が半数以上となりましたが、敬老会の祝い膳やお正月のおせち料理をはじめ、行事食にはお寿司や松花堂弁当などで見た目も彩鮮やかなメニューを提供しています。また、「ご当地食材を使ったおやつ作り」にも挑戦中で、職員のアイデアを募っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェック、状態に応じた食事形態による提供、好き嫌いや禁止食材の確認による適切な食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔状態によってハブラシの人やクルリーナブラシ・スポンジブラシ等に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけており、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導やトイレの声掛けを行っている。オムツやリハビリパンツなど、状態により使用の中止や変更の対応をしている。	ベッド上での交換となっている人が増え、皮膚トラブル防止に細心の注意を払いながら、夜間の陰部洗浄は安眠の妨げにならないよう、個々の睡眠状況に合わせています。バルーンカテーテルで入居した人が、医師との連携でトイレでの排泄ができるようになった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食事や乳製品等の提供、運動の実施などにより便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分で意見ができる方は曜日や時間帯を聞き、なるべくご本人の意志に沿えるよう支援している。気分が乗らない方は無理強いせず曜日をずらす等柔軟に対応をしている。	浴槽に浸かれる人は5名程となっていますが、週2日を目安とし、「毎日入りたい」という希望があれば徐々に体制を整えて叶えたいとしています。シャワーキャリーを使ったシャワー浴では、入浴前に暖房や湯気で浴室を十分暖め、足湯を併用して寒さ対策を施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に応じ就寝時間も違っている為、眠れる時間までリビングでお過ごし頂いたり居室でくつろげられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしてある。薬の変更があった時には必ず効果、副作用を職員同士で確認し理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	令和2年から新型コロナウイルスの影響により外出等実施が難しくなっている。月ごとのイベントを実施、気分転換を図っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年から新型コロナウイルスによる影響で外出が難しくなっている。ホーム敷地内での日光浴や近隣の散歩などを実施している。	気候が安定する春と秋には積極的に外気浴をおこなっています。庭先でのティータイムやラジオ体操では利用者の談笑がそよ風に乗って近隣に響き、道行く人との挨拶も弾みます。ドライブで馴染みの店までシラスを買いに行った時には、車窓からの景色を楽しみました。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物があればご家族に相談し許可をもらい購入を支援している。現在、新型コロナウイルスの影響により、買い物などの外出に出かけることが難しい状況となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方はご自分で連絡をされている。希望があれば電話の取次ぎ、手紙のやり取りは支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は居心地がいいと思って頂けるよう心がけている。季節が解るよう飾りつけをして工夫している。	8月は花火、9月はお月見といったように、リビングには毎月職員と利用者の協同制作による壁面が季節感豊かに掲示されています。日中はフロア清掃専門職員が、業務終了後は夜勤者が薬剤による床清掃とコンタクトポイントの消毒等、念入りな感染症対策をおこなっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアに畳スペースを設け、自由に使用いただけるように工夫をしている。畳スペースは立ち上がりが容易にできるものを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や大事にしていた物などを持ってきて頂き、本人が安心して過ごしていただけるよう工夫している。	衣替えにも十分な収納力があるクローゼットが備え付けられ、家族の写真を壁に飾ったり、愛読書やぬいぐるみがベッドの傍らに置かれている居室もあります。臥床時間が長くなっても、日中はフロアで過ごす時間を作り、エアマットやL字柵で快適性や安全性に配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。廊下、トイレ、浴室には手すりが設置され、安全にまた出来るだけ自分でできることはやって頂く様、支援している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200908		
法人名	株式会社ユニマツリタイアメント・コミュニティ		
事業所名	中野新田グループホームそよ風(ゆとりユニット)		
所在地	静岡県駿河区中野新田254-5		
自己評価作成日	令和4年10月18日	評価結果市町村受理日	令和5年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&kaijyosyoCd=2295300095-00&ServiceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和4年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者の平均年齢90歳、平均介護度4.1。日常的に介護が必要な方のユニットとなっています。ご入居者様が希望される生活が維持できますように、医療機関との連携を密にし、必要のあるご利用者には訪問マッサージを手配。ADLの維持・向上を図っております。日々の健康観察・異常の早期発見に務めております。入居者様の楽しみである食に関しては、誤嚥性肺炎の防止に務め、いつまでも美味しく召し上がって頂けるように支援しております。毎月歯科医院による口腔衛生に関する指導をいただいております。また、ご状態ごとに柔軟に食事形態を対応させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

かつては地域との交流が盛んにおこなわれていた事業所ですが、利用者の重度化の波と同時に長引くコロナ禍で様変わりしました。「お客様と職員と地域が繋がる、開放的なセンター」の理念が示す通り、本来の地域密着型サービスとして地域貢献、地域共生を実現すべく、今年度は施設内外の環境作りに取り組んでいます。庭を手入れして駐車場の一面にベンチを設置し、コロナ禍にあっても地域交流や家族との面会を可能にするとともに、修復した看板を掲示板としても活用しています。また、施設内においても畳小上がりベンチやテーブルの整備等、着々と受け入れ態勢を進め、その日が来ることを心待ちにしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お客様と職員と地域が繋がる、開放的なセンター」という、施設理念のもと、職員が一丸となってお利用者様の希望される生活継続と、地域と連携がとれる施設となる為、実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和2年からの新型コロナウイルスの影響により、地域との交流は困難な状態となっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	令和2年からの新型コロナウイルスの影響により、地域との交流は困難な状態となっている為、地域に向けて活かすことが難しい。認知症の専門職がいることを発信し、相談できる場所であることの周知を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	令和2年からの新型コロナウイルスの影響により、関係者が集まったの運営推進会議は5月に一度開催したのみ。開催できていない月に関しては施設現状に関する報告書を関係各所へ郵送し、適宜ご意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	在宅生活継続困難な事例の受け入れ、成年後見人制度における市町村長申し立ての相談、生活保護受給者の受け入れと状況報告等、相談・協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を月に1度開催している。また身体拘束について毎月の全体会議で研修を行い、身体拘束をしないケアについて話し合いをし、身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会で虐待についての研修も同じように行っております。管理者、職員で虐待に繋がらないよう注意を払っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について内部で学んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご利用者様やご家族様に十分に理解して頂けるように説明し疑問があれば納得して頂けるように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にサービス向上の為のご家族へのアンケート調査を実施している。 ご意見箱を設置し気軽にお話して頂ける環境に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	三役会議・ユニット会議・全体会議を開き話し合いの場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回面談を実施し、職員の状況を把握し困っている事がないか等の意見を聞き、働きやすい環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議時等の内部研修や外部研修に積極的に参加してしている。 外部研修で学んだ事を研修報告書にまとめ他の職員と共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	令和2年からの新型コロナウイルスの影響により、同業他社との交流機会の場が持てていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に本人の要望や不安なことを聞きそれにお答えしながら、安心してサービス提供できる関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面接で困っていることや不安に思っていること、要望などを伺い、信頼関係を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の面接時に生活歴や生活状況をお聞きし、課題となっていることを明確にし、適切な支援ができるように相談・助言を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今できていることを継続し、役割をもって生活していただくことにより、良好な関係性を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ホーム便りをご家族にお送りし本人の写真と共に普段の様子や変わった事を伝えている。また状態に変化があった時には、その都度報告をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	令和2年から新型コロナウイルスの影響により、面会は感染予防対策を行い、ガラス越し・2mの距離を保つての対応となっている。Lineのビデオ通話機能の活用など、関係継続の為に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子観察を実践する中で、ご利用者同士の関係性を把握し、共有スペースでの席の決定や、家事の役割分担を調整している。レクリエーションへの参加を通じ、孤立化を防ぎ、ともに楽しめる関係性を築けるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、必要に応じて相談や支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いが言える方には本人から希望を聞き、それに向かって支援している。困難な方は本人の立場で考え、生活歴やご家族からの情報提供の内容を踏まえて意向を検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様や家族の方との話の中で生活歴や馴染みの暮らし方を把握している。ご利用開始時には居宅介護支援事業所等関係機関から情報提供をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の健康状態把握の為、バイタルチェック、食事・水分量チェック、排泄確認、体重測定を実施している。共有スペースでのご様子、自室での過ごし方等、様子観察を実施、また定期的にアセスメント実施し現状の能力の把握に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々モニタリングを実施、ご本人・ご家族へ意向を確認し、担当者会議による現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々様子観察を実施し、個別記録作成。申し送りノートも活用し、情報を共有。実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人・ご家族の要望を伺い、施設としてできることは実践、困難な場合には適切なサービスにつなげるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の資源を把握し、個々に合った活用法の提供ができるように努めています。施設も一つの資源と考え、新たに資源として活用できることはないか、資源開発にも取り組んでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個別に契約頂いた協力医の往診が月に2回あり、状態の急変等あった際には夜間問わずすぐに対応していただいている。状態によっては紹介状により、適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1度健康管理に来ており、その時に個々のご利用者様の普段の情報や気づきを相談している。何かあったときには協力医に連絡するよう指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際にはサマリを作成し、医療機関に提出。早期退院と受け入れの調整のため、病院関係者との情報交換や相談を積極的に行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化指針の説明を実施。状態の変化見られた際には医療機関と連携し、意思確認書による施設のできることの説明、医療機関によるインフォームドコンセント及びその立ち合いにより、チーム支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変時、事故発生時は、マニュアルに沿って行うように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての避難訓練を年に2回実施している。令和2年からの新型コロナウイルスによる影響で地域との協力体制が進んでいないが運営推進会議にて協力依頼をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し、言葉遣いや声の掛け方に注意を払い対応してる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中でご利用者様に自己決定ができるような声掛けをするよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様それぞれのペースを大切に、一日の過ごし方に関しては希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べる方にはご自分で選んでいただいている。持参の化粧水や洗顔せっけんを使っていただくように支援している。二か月に一回理美容が行われている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単な片づけや準備ができる利用者様には、職員と一緒にやっていたいっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェック、状態に応じた食事形態による提供、好き嫌いや禁止食材の確認による適切な食事の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。口腔状態によってハブラシの人やクルリーナブラシ・スポンジブラシ等に対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をつけており、個々の排泄パターンを把握しトイレ誘導やトイレの声掛けを行っている。オムツやリハビリパンツなど、状態により使用の中止や変更の対応をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の豊富な食事や乳製品等の提供、運動の実施などにより便秘予防の取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご自分で意見ができる方は曜日や時間帯を聞き、なるべくご本人の意志に沿えるよう支援している。気分が乗らない方は無理強せず曜日をずらす等柔軟に対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に応じ就寝時間も違っている為、眠れる時間までリビングでお過ごし頂いたり居室でくつろげられるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴じており、職員がいつでも確認できるようにしてある。薬の変更があった時には必ず効果、副作用を職員同士で確認し理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	令和2年から新型コロナウイルスの影響により外出等実施が難しくなっている。月ごとのイベントを実施、気分転換を図っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	令和2年から新型コロナウイルスによる影響で外出が難しくなっている。ホーム敷地内の日光浴や近隣の散歩などを実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な物があればご家族に相談し許可をもらい購入を支援している。現在、新型コロナウイルスの影響により、買い物などの外出に出かけることが難しい状況となっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話の取次ぎ、手紙のやり取りの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は居心地がいいと思って頂けるよう心がけている。季節が解るよう飾りつけをして工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアに畳スペースを設け、自由に使用いただけるように工夫をしている。畳スペースは立ち上がりが容易にできるものを設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた物や大事にしていた物などを持ってきて頂き、本人が安心して過ごしていただけるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっている。廊下、トイレ、浴室には手すりが設置され、安全にまた出来るだけ自分でできることはやって頂く様、支援している。		